2017 年 10 月 22 日

福音書からのメッセージ

彼らは、「皇帝のものです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」（マタイによる福音書 22 章 21 節）

聖書にはイエス様に敵対する存在として、ファリサイ派という人たちがよく出てきます。しかし彼らは真剣に神さまを求めていました。律法を忠実に守り、周りの人に教えていきます。しかし律法を守ることができない人とは決して交わらず、罪人だといって自分たちから遠ざけました。それに対しイエス様は、罪人と言われていた人たちと交わり、一緒に食事をします。そしてファリサイ派が厳格に守っていたものよりも大切なものがあると説くのです。

わたしたちにも経験があると思いますが、自分がずっと大切にしてきたことを崩されたときに、すべてを否定されたような気分になります。そして、相手を受け入れることなど、できなくなるのです。ファリサイ派はイエス様に対して、そのような思いを持っていたことでしょう。そしてなりふり構わず、イエス様を陥れようとします。ファリサイ派と考え方がまったく違い、ローマの支配を受け入れていたヘロデ派の助けを借りてまで、イエス様を自分たちの前から消し去ろうとします。

ユダヤ人にとって、ローマに税金を納めることは生活が苦しくなる以上の屈辱を与えられることでした。銀貨には神格化されていた皇帝の肖像が刻まれており、銀貨を使用することは異教の神々を拝むことを意味していたのです。

もしイエス様が、「律法に適っている」と答えると、それは他の神々を拝んでよいということと同じです。それは、群衆には絶対受け入れることのできないものです。群衆はイエス様から離れていくことでしょう。しかし「適っていない」というとヘロデ派は反逆罪でイエス様を捕らえることになります。

イエス様は言われます。「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」と。この言葉を聞いて、イエス様はうまく罠をまぬがれたなどと感心していてはいけません。イエス様が言いたかったのはこういうことです。「皇帝のものは皇帝に返したらいい。そんなこと勝手にしたらいい。しかしいいか、神さまのものはあなたのものではない。神さまに返しなさい」。

政治的な議論でも、世俗の仕組みについての話でもありません。神さまとわたしたちとの関係はどうなのだ、そのことに議論を集中させます。わたしたちは神さまのものなのだから、神さまのために生きなさいということです。神さまにすべてをお返しして、神さまにすべてを委ね、その思いを求めて生きていくのです。

神さまはわたしたちを、神の似姿としてつくられました。わたしたちにはすでに、神さまの姿が刻まれています。そのことを信じ、自分の思いから自由になって、神さまのみ心にそって生きてほしい。それがイエス様からのメッセージなのではないでしょうか。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町 184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/